

令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101554	
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ	
事業所名	甲府ケアセンターそよ風	
所在地	山梨県甲府市富竹3丁目3番5番	
自己評価作成日	令和2年2月19日	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりの気持ちに寄り添い、意思を受け入れるようにしている。日々安心・安全に過ごしていただけるように職員一同心がけている。また、ご家族様の意向・介護負担を考え、必要な方には内科・皮膚科・精神科などの病院受診に対応している。形式に捉われることなく、それぞれのペースで自分らしい生活ができるように支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

甲府の南西に位置し、廃棄道と並行する県道沿いに事業所がある。鉄骨2階建ての2階が2ユニットのグループホームで併設した1階がデイサービスになっている。周辺は、大型家電店やスーパー、商店、中学校、幼稚園等があり利便性の良い環境である。事業所内の季節行事や外出、外食も多くあり、利用者の楽しみとなっている。また、併設しているデイサービスと合同での催しの際には、地域の人やボランティア等大勢の人々と交流する機会となっている。事業所内での日々の暮らしは、その人らしく、なごやかな環境で、ゆったりと自由な時間を送れるように、利用者の希望に寄り添いながら思いを聴き、支援に繋げるよう日頃から努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	3/5/2020

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果		事業所名	甲府ケアセンターそよ風		[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH独自の理念に基づき、意識の共有を図り、実践している。	GH独自の理念に基づき、意識の共有を図り、実践している。	「やさしさ思いやり」を事業所理念として、各フロアや事務所に掲示して常に意識づけられている。また、毎月のフロア会議で理念について確認したり、実例をもとに話し合い、利用者一人ひとりに合わせ、否定しないで受け入れる支援を心がけ、職員間で共有し実践に努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動に参加するため、会費を納め、河川清掃や夏祭りに参加している。事業所の行事などの際、地域より物品を借用しご近所付き合いしている。	自治会活動に参加するため、会費を納め、河川清掃や夏祭りに参加している。事業所の行事などの際、地域より物品を借用しご近所付き合いしている。	自治会に加入しており、毎年実施される地域の河川清掃に職員が参加し住民と一緒に作業している。利用者も地域のお祭り等には職員と一緒に行き、地域の人達と交流する場となっている。事業所で開催する納涼祭の時には、机といすを自治会から借りるなど事業所と地域の関わりを作っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長さんとの関わりを持ち、組長会議などの集まりに出席している。認知症についての疑問・相談にのっている。	自治会長さんとの関わりを持ち、組長会議などの集まりに出席している。認知症についての疑問・相談にのっている。	
4	(3)	1 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、包括・地区民生委員・ご家族様・職員で運営推進会議を行っている。そこで出た意見・要望などを申し送りや、フロア会議などでおろし取り組んでいる。	2ヶ月に1回、包括・地区民生委員・ご家族様・職員で運営推進会議を行っている。そこで出た意見・要望などを申し送りや、フロア会議などでおろし取り組んでいる。	2か月に一度、定期的開催している。家族全員に開催通知を送り、毎回4～5名が参加している。事業所からは、活動内容、事故報告、ヒヤリハットの件数、今後の予定等を報告している。参加者から出された意見、要望を受けてフロア会議で話し合い反映させている。欠席した家族には、議事録を送付している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難な問題や、疑問が生じたときには、地域包括センターや市役所に相談し解決するよう取り組んでいる。	困難な問題や、疑問が生じたときには、地域包括センターや市役所に相談し解決するよう取り組んでいる。	市の担当者には、運営推進会議の議事録を送付して事業所の実情や取り組みを伝えている。事故報告書の提出や介護保険認定時は向かい直接話している。相談事項がある時には応じてもらえるような関係を築いている。また、毎月、市から介護相談員を受け入れている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指針基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関の施錠は交通量の多い道路に面しているため、安全確保の面からやむを得ず行っている。希望があれば、職員が付き添い外出している。	身体拘束は行っていない。玄関の施錠は交通量の多い道路に面しているため、安全確保の面からやむを得ず行っている。希望があれば、職員が付き添い外出している。	フロア会議で実例を挙げて身体拘束をしないケアについて話し合いをしている。併設のデイサービスと合同の全体会議でもセンター長が講師となり身体拘束の基本的な研修を行っている。事業所内に身体拘束委員会もあり、スピーチロックも含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に出席し、研修報告・学習会などを行っている。身体拘束・虐待防止委員会を設置し、より良い介護に繋がれるようにしている。	研修会に出席し、研修報告・学習会などを行っている。身体拘束・虐待防止委員会を設置し、より良い介護に繋がれるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し、研修報告・学習会を適宜行い、より良い介護に繋がれるようにしている。	研修会等に参加し、研修報告・学習会を適宜行い、より良い介護に繋がれるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、利用者様・ご家族に充分に時間を取り説明を行い、理解・納得を得ている。入居後も、不安なことや不明なことがあれば、その都度対応している。	契約の際、利用者様・ご家族に充分に時間を取り説明を行い、理解・納得を得ている。入居後も、不安なことや不明なことがあれば、その都度対応している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 甲府ケアセンターそよ風

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、意見交換しやすい雰囲気作りを心がけている。運営推進会議や家族会で出た意見は、職員全体で共有し、運営に反映させるようにしている。	日頃から、意見交換しやすい雰囲気作りを心がけている。運営推進会議や家族会で出た意見は、職員全体で共有し、運営に反映させるようにしている。	家族会があり年1回集まる機会を作り、話し合いの場としている。また、家族等の面会時には話しかけ、居室担当職員が不在の時でも対応できるよう、申し送りノートで共有している。家族等から出された意見、要望は話し合い、支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議などで意見交換を行い、職員全体で共有し運営に反映させている。	全体会議やフロア会議などで意見交換を行い、職員全体で共有し運営に反映させている。	センター長との個人面接を年1回実施して、職員から意見、要望を聞く機会としている。管理者は、職員の休憩時間に話を聞いたり、必要に応じて面談をしている。日頃働く中で職員が気づいたトイレ修理、ドアの開閉修理、感染予防対策として加湿器用除菌液購入等の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長・管理者は労働条件を把握し、働きやすい職場環境づくりを心がけている。また、それぞれの職員の良い面を把握し、より伸ばしていけるように声掛け、指導をしている。働きやすい職場環境になるように努めている。	施設長・管理者は労働条件を把握し、働きやすい職場環境づくりを心がけている。また、それぞれの職員の良い面を把握し、より伸ばしていけるように声掛け、指導をしている。働きやすい職場環境になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フロア会議・全体会議で適宜学習会を行っている。法人内外の研修や、資格取得を積極的に推進し、参加しやすい環境づくりに努めている。	フロア会議・全体会議で適宜学習会を行っている。法人内外の研修や、資格取得を積極的に推進し、参加しやすい環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会・勉強会に積極的に参加している。他施設見学や情報交換を行い、交流を図っている。	交流会・勉強会に積極的に参加している。他施設見学や情報交換を行い、交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思い、気持ちに寄り添いながら耳を傾けるようにしている。納得がいくまで十分に話をした上で、サービスの導入をしている。	ご本人の思い、気持ちに寄り添いながら耳を傾けるようにしている。納得がいくまで十分に話をした上で、サービスの導入をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とも十分な話し合いを行い、不安・不明な点が無いようにしてサービスの導入をしている。要望などが会った場合はその都度対応し、信頼関係を築けるように努めている。	ご家族様とも十分な話し合いを行い、不安・不明な点が無いようにしてサービスの導入をしている。要望などが会った場合はその都度対応し、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、デイサービスとの連携を図り、サービスの導入をしている。	必要としている支援を見極め、デイサービスとの連携を図り、サービスの導入をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の出来る限り能力を見極め、一緒に洗濯物を干したりたんだり、洗い物を洗ったりしている。家庭的な雰囲気の中で温かい関係が築けるようにしている。	個人の出来る限り能力を見極め、一緒に洗濯物を干したりたんだり、洗い物を洗ったりしている。家庭的な雰囲気の中で温かい関係が築けるようにしている。		

自己評価および外部評価結果		事業所名	甲府ケアセンターそよ風	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、生活の様子・健康状態などお便り等で報告している。小さなことでも何か変化があれば、その都度電話で連絡し、報告している。ご家族様からも安心して生活できるとお言葉をいただいた。	毎月、生活の様子・健康状態などお便り等で報告している。小さなことでも何か変化があれば、その都度電話で連絡し、報告している。ご家族様からも安心して生活できるとお言葉をいただいた。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	これまでの友人やご近所の方々にも気軽に来ていただけるように、面会はいつでも自由に来れるような環境と明るい雰囲気づくりを心掛けている。馴染みの場所への支援はご家族にも協力をお願いしている。	これまでの友人やご近所の方々にも気軽に来ていただけるように、面会はいつでも自由に来れるような環境と明るい雰囲気づくりを心掛けている。馴染みの場所への支援はご家族にも協力をお願いしている。	自宅に行ったり、外食やお彼岸の時にはお墓参りに行くなど家族と一緒に出掛けている。また、以前から行きつけの美容院に行く際にも家族の協力が得られている。友達や近所の人も面会に来ていて、人や場所のつながりを継続できるように支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者と向き合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でうまく会話が出来ない場合は、職員が間に入り会話が出来るように気を配っている。仲の良い方は、隣同士の席にするなど配慮し、楽しく過ごせるように配慮している。	利用者同士でうまく会話が出来ない場合は、職員が間に入り会話が出来るように気を配っている。仲の良い方は、隣同士の席にするなど配慮し、楽しく過ごせるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要があれば、相談・支援に努めている。	サービス終了後も必要があれば、相談・支援に努めている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を尊重し、ご家族から情報収集を行っている。可能な限り、希望に添えるケアを心がけている。希望が言えない方は、今までの生活歴や家族からの情報収集を行い、ご家族の希望に添えるようなケアを心掛けている。	ご本人の希望を尊重し、ご家族から情報収集を行っている。可能な限り、希望に添えるケアを心がけている。希望が言えない方は、今までの生活歴や家族からの情報収集を行い、ご家族の希望に添えるようなケアを心掛けている。	入居時に生活に対する本人、家族の意向を聞いて把握している。フロア会議でも把握した情報を共有して、思いや暮らし方の希望に添える支援に努めている。また、ゆっくりできるお茶の時間や入浴時に思いを聞く機会がある。困難な場合は、家族から聞いたり、表情を見て対応している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集を行い、一人ひとりの生活環境の把握に努めている。GHでも、出来る限りこれまでと同じような生活が続けられるように努めている。	情報収集を行い、一人ひとりの生活環境の把握に努めている。GHでも、出来る限りこれまでと同じような生活が続けられるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	形式に捉われず、それぞれのペースで、自由にのんびり過ごせるようにしている。	形式に捉われず、それぞれのペースで、自由にのんびり過ごせるようにしている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月フロア会議を実施。担当者会議の中で意見を出し合い介護計画に反映している。また、モニタリングを行い職員からの気付きなど、小さなことでも共有するようになっている。	毎月フロア会議を実施。担当者会議の中で意見を出し合い介護計画に反映している。また、モニタリングを行い職員からの気付きなど、小さなことでも共有するようになっている。	入居時に利用者、家族の意向を聞いて反映した介護計画を作成し、1か月後にフロア会議で話し合い見直しをしている。短期、長期目標を立てて介護計画を作成し、毎月のモニタリングに基づき、変化がなければ3か月で見直しをしている。また、変更時は家族から同意を得て現状に即した介護計画としている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録・引継ぎノートを活用し、日々の様子やケアの実践記録・結果を記録している。また、ヒヤリハットノートに確認印を押すようにし、情報共有するようになっている。	個人の記録・引継ぎノートを活用し、日々の様子やケアの実践記録・結果を記録している。また、ヒヤリハットノートに確認印を押すようにし、情報共有するようになっている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 甲府ケアセンターそよ風

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(までしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、既存のサービスに捉われず、柔軟な対応が出来るよう努めている。	都度、既存のサービスに捉われず、柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ、近隣の商店・銀行・郵便局を利用し、馴染みの関係の構築に努めている。	出来るだけ、近隣の商店・銀行・郵便局を利用し、馴染みの関係の構築に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及び、ご家族の意向を一番に考えている。在宅と同じ主治医にご家族対応で受診を行っているが、家族対応が困難な方のため、内科・皮膚科などの受診はこちらで行っている。	ご本人及び、ご家族の意向を一番に考えている。在宅と同じ主治医にご家族対応で受診を行っているが、家族対応が困難な方のため、内科・皮膚科などの受診はこちらで行っている。	入居前のかかりつけ医や協力医を利用者、家族が希望して定期受診している。家族が付き添い受診する時には、状態に応じてメモを渡している。受信結果も家族から聞いて情報共有している。協力医の訪問診療は車椅子の利用者が受け、歩行できる利用者は看護師が付き添い受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算をとっており、看護師が常勤で勤務。必要に応じて、デイサービス看護師や訪問看護師に相談し、適切な病院受診に繋げている。	医療連携加算をとっており、看護師が常勤で勤務。必要に応じて、デイサービス看護師や訪問看護師に相談し、適切な病院受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際、必ずサマリーを用意し、より適切な医療が受けられるよう病院関係者との情報交換を行っている。必要に応じ、医師を交えたカンファレンスを行っている。	入院の際、必ずサマリーを用意し、より適切な医療が受けられるよう病院関係者との情報交換を行っている。必要に応じ、医師を交えたカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の思いを尊重し、終末期のあり方・方向性の説明、身体状況に応じ、随時話し合いを行っている。在宅医療・訪問看護の協力体制を整えるよう努めている。	ご本人・ご家族の思いを尊重し、終末期のあり方・方向性の説明、身体状況に応じ、随時話し合いを行っている。在宅医療・訪問看護の協力体制を整えるよう努めている。	家族会の開催時に、重度化や終末期の事業所での対応について話をし家族の意向確認を行っている。医師や事業所の看護師が身体状況を確認し、重度化した場合は家族等関係者と話し合いの機会を作り、本人や家族の意向を踏まえて方向性を決めている。終末期を事業所で迎えられるよう在宅医療と訪問看護師の協力体制を整え、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議・フロア会議等で急変時・事故発生時に備えての学習会を定期的に行っている。	全体会議・フロア会議等で急変時・事故発生時に備えての学習会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一回、避難訓練を実施している。その時により、昼夜の設定をしている。非常時には地域との協力体制を築いている。	半年に一回、避難訓練を実施している。その時により、昼夜の設定をしている。非常時には地域との協力体制を築いている。	年2回実施し1回は併設しているデイサービスと合同で行い、避難誘導の時間を計っている。消防署も立ち合い消火器の使い方や避難誘導の指導を受けている。事業所単独でも夜間を想定した訓練を実施し、2階からの避難方法として段ボールを活用した訓練を利用者と一緒にしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やベースを尊重している。その人それぞれに合った対応・言葉がけをしている。また、無理強いはず、ゆったりとした介護を心がけている。	一人ひとりの人格やベースを尊重している。その人それぞれに合った対応・言葉がけをしている。また、無理強いはず、ゆったりとした介護を心がけている。	利用者の気持ちに寄り添い話を聞いたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。トイレ誘導や失敗した時の声掛けにも気を付けて、本人や周囲に配慮したさりげない言葉かけをしている。呼称の基本は苗字としている。また、申し送りの際は職員同士の声のトーンに気を付けている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじぐら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを聴き、可能な限り決定が出来るよう働きかけ支援している。意思表示が困難な方は、キーパーソンに意思を伺うなどして希望に沿った自己決定が出来るよう努めている。	ご本人の思いを聴き、可能な限り決定が出来るよう働きかけ支援している。意思表示が困難な方は、キーパーソンに意思を伺うなどして希望に沿った自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・食事時間などに決まっているが、一人ひとりのペースに合わせて生活出来るようにしている。	入浴・食事時間などに決まっているが、一人ひとりのペースに合わせて生活出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしく自由に、身だしなみ・おしゃれが出来るよう見守り・支援している。一日の内、数回着替えをしたい方には見守りをしたり、必要時付き添っている。	その人らしく自由に、身だしなみ・おしゃれが出来るよう見守り・支援している。一日の内、数回着替えをしたい方には見守りをしたり、必要時付き添っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるよう、見た目・彩り・盛り付けなどを工夫している。リクエストや好みの物を取り入れたりしている。出来る利用者様と、一緒に片付け・食器洗いなど行っている。必要時、ミキサー食や刻み食にしその方に合った食形態で提供している。	食事を楽しめるよう、見た目・彩り・盛り付けなどを工夫している。リクエストや好みの物を取り入れたりしている。出来る利用者様と、一緒に片付け・食器洗いなど行っている。必要時、ミキサー食や刻み食にしその方に合った食形態で提供している。	本社から献立表が送られてくる。食材は地域のお店に発注して届けてもらっている。利用者の意見を聞いて好みのメニューに替える事もしている。調理は職員が行い、利用者も出来る事の手伝いをしてる。月に数回は、出前でも利用者の好む釜めし、お寿司等を頼んでいる。行事食も楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が考えた、高齢者の栄養バランスを考慮した内容になっている。食事・水分摂取量が分かるように記録している。嚥下状態の見極めを行い、トロミを使用している。	献立は管理栄養士が考えた、高齢者の栄養バランスを考慮した内容になっている。食事・水分摂取量が分かるように記録している。嚥下状態の見極めを行い、トロミを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認している。状態に応じ、送迎付きの歯科受診をしたり、往診にきてもらったりしている。	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認している。状態に応じ、送迎付きの歯科受診をしたり、往診にきてもらったりしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のバターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排尿リズムをつかみ声掛け、トイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄出来るようにしている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排尿リズムをつかみ声掛け、トイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄出来るようにしている。	排泄チェック表を使用し、利用者一人ひとりに合わせてトイレ誘導をしている。布パンツの利用者もいて自立してトイレに行った時も、さりげなく支援している。退院後におむつを使用していた利用者も、体操や足上げ訓練をして日中はハビリアパンツで過ごし、夜間のおむつを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品を摂ったり、水分を多く摂取している。毎食時に植物性ゼリーを提供している。状態に応じ、主治医に相談し、整腸剤・下剤の処方してもらっている。	繊維質の多い食品を摂ったり、水分を多く摂取している。毎食時に植物性ゼリーを提供している。状態に応じ、主治医に相談し、整腸剤・下剤の処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	転倒など危険防止のため、職員の見守りが出来る午後の時間帯に行っている。	転倒など危険防止のため、職員の見守りが出来る午後の時間帯に行っている。	毎日、午後から入浴の準備をしている。3日に1回を基本としているが、利用者のその日の希望にあわせて入浴できるようにしている。ゆっくり入りたい利用者もいて、入浴する順番を決める時もある。入浴を拒む利用者には、声掛けの工夫や職員を替えるなどして入浴を試みている。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	甲府ケアセンターそよ風	〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじぐら)	実践状況
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個人のペースに合わせて自由に行っている。夜間、不眠にならないよう日中は体操をしたり、歌を歌ったり出来るだけ活動量を増やすようにしている。	就寝時間は個人のペースに合わせて自由に行っている。夜間、不眠にならないよう日中は体操をしたり、歌を歌ったり出来るだけ活動量を増やすようにしている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書などをしっかり読み、何の薬か把握をするようにしている。薬の効果や、副作用を見極め看護師に相談している。必要時、医師に情報の提供をしている。	薬の説明書などをしっかり読み、何の薬か把握をするようにしている。薬の効果や、副作用を見極め看護師に相談している。必要時、医師に情報の提供をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことは積極的にやっていたりしている。生活歴やその方の力に合わせた役割が持てるよう支援している。出来ることに限りのある方は、行動・思いに寄り添い、手伝いながら支援している。	ご本人の得意なことは積極的にやっていたりしている。生活歴やその方の力に合わせた役割が持てるよう支援している。出来ることに限りのある方は、行動・思いに寄り添い、手伝いながら支援している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気・気候を見ながら、近くまで散歩に出掛けている。四季折々、季節を感じられるようフロアごとに計画を立てて、車椅子の方も含め、全員で外出するようにしている。	天気・気候を見ながら、近くまで散歩に出掛けている。四季折々、季節を感じられるようフロアごとに計画を立てて、車椅子の方も含め、全員で外出するようにしている。	日常的には事業所周辺の住宅地の中を散歩して、地域の人からも声を掛けられている。月に1回、外出計画があり外食や季節を感じる花見や紫陽花、夏のひまわり、紅葉見学等、車椅子を使用している利用者も一緒に全員で戸外に出掛けられるよう積極的に外出支援を行っている
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所の金庫で一括管理している。	事務所の金庫で一括管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙など希望があれば、いつでも出来るように支援している。	電話・手紙など希望があれば、いつでも出来るように支援している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節感のある装飾を工夫し、室温・湿度も適度に、心地よく過ごせるように配慮している。通路は整理整頓し、広々とした雰囲気になるよう心掛けている。	共有スペースには季節感のある装飾を工夫し、室温・湿度も適度に、心地よく過ごせるように配慮している。通路は整理整頓し、広々とした雰囲気になるよう心掛けている。	エレベーターを上がった2階のホールを挟んで同じ作りの2ユニットになっている。広く明るいリビングで対面式キッチン、ワンフロアにテーブルが置かれている。また、テレビ、ソファも共用空間にありくつろげる場となっている。居室、廊下、トイレ、浴室も掃除が行き届き温度や加湿にも配慮している。生活感や季節感のある装飾等で暮らしの場を整えている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは独りになれないが、それぞれが思い思いに自由に過ごせるようにしている。	共有スペースでは独りになれないが、それぞれが思い思いに自由に過ごせるようにしている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具を持ち込んでいただき、GHでも家にいるときと同じようにリラックスして過ごしていただけるようにしている。	ご本人の使い慣れた家具を持ち込んでいただき、GHでも家にいるときと同じようにリラックスして過ごしていただけるようにしている。	居室にはベット、エアコン、カーテン、クローゼットが備えてある。クローゼットの中は、棚と引き出しになっていて寝具や季節ごとの衣類の収納するのに便利である。テレビ、仏壇、タンス、イス写真等持ち込んだ物を配置して、その人らしく居心地よく過ごせる居室になっている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	GH玄関は安全を考慮して中からは出られないようになっているが、共有スペースや居室などは、バリアフリーになっており、安全に自由に行き来が出来るようになっており、思い思いに過ごしている。	GH玄関は安全を考慮して中からは出られないようになっているが、共有スペースや居室などは、バリアフリーになっており、安全に自由に行き来が出来るようになっており、思い思いに過ごしている。	